「女性の活躍促進・企業活性化推進営業大作戦」

第２５回

埼玉労働局長（阿部充）の企業トップ訪問

ポジティブアクション普及促進マーク
「きらら」

訪問企業：サンケン電気株式会社

〈訪問企業のプロフィール〉
サンケン電気株式会社
新座市北野３丁目６番３号
代表取締役社長　飯島　貞利

主な事業：半導体・電源機器製品の開発・製造・販売
労働者数：１４３５名（うち女性２５９名）
くるみん取得（平成２１年）
埼玉県・多様な働き方実践企業ゴールド認定

平成２６年９月１１日、サンケン電気株式会社の取締役専務執行役員の和田節氏（右上写真左）、執行役員の村上清氏（同写真右）をお訪ねしました。

この企業のここに注目！

・女性が活躍しやすい風土づくりのため上司へ意識啓発を実施！
・女性技術者の積極採用や選抜女性の育成で活躍の場が拡大！
・仕事と育児の両立しやすい制度が充実。出産後も継続勤務をして能力発揮！

女性の活躍推進は必然

女性の活躍推進に向けての取り組みは必然です。というのは、海外グループ企業に比べると国内では女性が活躍している場が少なかったのです。そこで、2009年から国内グループ企業含め優秀な女性を選抜して育成したり、女性部下を持つ上司に対する意識教育を始めたりという活動を始めました。今は本社と工場から女性を２０人くらい選抜して集合教育をするまでになりました。選抜女性向けの研修の後、女性同士のネットワークづくりになればと懇親会などを行っていますが、女性同士のためか非常に盛り上がります。当初は現場に納得してもらうのに時間がかかりましたが、今は皆の意識が高まって徐々に女性がいきいきと働けるようになってきました。

女性技術者を積極的に採用するよう努めた結果、技術者の約５％を女性が占めるまでに増えてきました。技術会議をしても女性は遠慮なく発言するため、議論が活性化しています。率直な意見が出る背景には、お互いを役職で呼ばず、「さん」付で呼び合う風習もあるのかもしれません。

日常生活から生まれる発想を仕事に活かす

工場では多能工化を進めていますが、女性は仕事・親・地域活動などいわば日常生活の中で多能工を実践していますからその発想を活かしていけると思っています。

女性が海外出向にも手を上げるようになり、常に１、２名は海外出向に行っています。また、地方の女性従業員の中には子育てが終わって身軽になれば転勤や出向に挑戦してみたいという人もいます。そのような人が今までより声を上げやすくなってきたのを感じます。本社だけだと活躍の場が狭くなってしまうので、グループ会社、海外拠点も含めて活躍の場を広げていける施策をとっ

ていきたいですね。さらに、女性がいなかった職務に女性を複数名配置していきます。

出産後の継続勤務をサポート

女性の能力発揮のためには、出産などで休職する人もいますので、継続勤務に向けての制度も必要です。

女性が３００人いる現状で一人２０％ずつ、より多く能力を発揮してもらえれば、育児休業取得者が仮に３０人出ても十分カバーできます。

当社では失効年次有給休暇を貯めて育児等に使えるサポート休暇や、子が２歳になるまで利用可能な育児休業制度、小学３年生までの短時間勤務等、法定以上に制度を充実させています。その結果、出産・育児による退職者は近年０人です。

今後の課題としては、技術者が子供を産んでもスキルを維持できるような在宅勤務制度や早期に復職をしたい人向けの施策ですね。また、出産して復職した後選抜に入っている女性や、選抜メンバーだがこれから出産するという女性もいます。様々な事例にどう対応するかも課題です。

経験が能力や意欲の向上につながる！

女性だからと無理に登用するのではなく、能力をしっかり育成・評価していくことが本人のためにも社内の納得を得るためにも大切です。プロジェクトリーダーの経験をさせると組織運営の仕方を学び、モチベーションアップにつながります。また、その経験が次の仕事に活かされます。人の上に立つ女性はまだ多くはありませんが、その候補生が増えているのでいずれ女性の事業部長が出てくることに期待しています。

労働局長からのエール

局長より「会社の期待を感じると女性はどんどん成長していきます。既に育児関係の制度が非常に充実しておられるので、これからは個々人の違いがある中でどう運用していくかをさらに磨いていっていただきたいですね。育児は２４時間勤務のようなものです。育児を体験することで効率的に仕事をするタイムマネジメントができるようになります。従業員の皆様にも、育児をした結果仕事が効率化するという好循環を生み出していっていただきたいです。」とエールを送りました。

2013・2014 年度と連続してグッドデザイン賞を受賞されるほどの製品開発力を持つ同社。既に様々な取り組みをし、成果を出しておられますが、今後も女性の力を成長の原動力にして、さらなる飛躍を遂げることを期待しています。